

福井大学

福井大学の 特色ある取組 2022

格致によりて
人と社会の未来を拓く



国立大学法人

福井大学

格致によりて 人と社会の未来を拓く

近代福井の礎を築いた松平春嶽公が書した本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。

「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・社会貢献等で自らの指針となる言葉です。

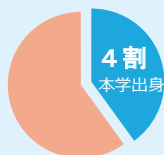
福井大学は、この「格致」を理念に掲げ、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。



本学所有の「格致」の額面

※「格致」とは中国の古典「大学」にある「格物」「致知」を短縮した熟語です。「格物」とは事物に直接触れ、「致知」は知識を完成させることなどとされます。

多くの卒業生が福井を支えています



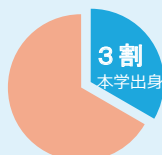
県内教員数の割合



教育学部

—地域の次世代を
育てる教員の養成—

- 福井県の教員数
(小中高・特別支援学校)
7,341人
- うち本学の卒業生数
2,776人



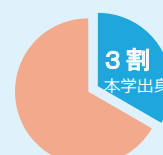
県内医師数の割合



医学部

—地域医療を担う
医療人の養成—

- 福井県の医師数 2,057人
うち本学の卒業生数 661人
- 福井県の看護師・保健師・
助産師数 9,956人
うち本学の卒業生数 376人



県内エンジニア・
科学研究者数の割合



工学部

—地域産業を創造する
技術者の養成—

- 福井県のエンジニア・
科学研究者 13,700人
うち本学の卒業生数
4,607人

※福井県のデータは、教：2021年度学校基本調査、医：2018年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：2020年衛生行政報告例、工：2015年国勢調査より。福井大学卒業生のデータは、2020年度時点の同窓会データより。(工学部は経営戦略課調べ)

◆ 2016年に設置した国際地域学部では、2020年3月に初めての卒業生を輩出しました。卒業生の約6割が福井県内の企業、自治体等で活躍中です。

教育学部理念

新しい時代に生きる子どもたちの未来をひらく教師をめざして

地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

～学部教育～

探求ネットワーク事業

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC（ふれあいフレンドクラブ：障がいのある子どもたちが対象）などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。



探求ネットワーク事業

ライフパートナー事業

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。



教育実践研究（教育実習）

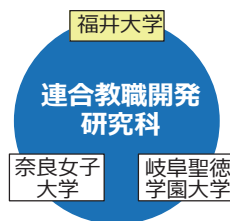
教育実践研究

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクトであり、1年次から附属学園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動します。

～大学院教育～

特色ある3大学による「連合教職大学院」

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い「学校拠点方式」を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。



（学校拠点方式とは）

幼小中、特別支援学校等の学校現場（拠点校、連携校）を学びの場とする本学独自の教育方式。県域を越えた3大学が連合し、全国の約60拠点で学んでいます。

三位一体教育改革

基幹校である福井大学では、学部・大学院・附属学園の有機的な結合のもと、研究実践者教員を中核とする教員養成機能の抜本的強化を推進しています。

- ・教職大学院を附属学園に置き、附属学園を先端的教師教育研究の拠点に
- ・福井県内全ての管理職候補者が無理なく大学院で学べるシステムを構築し、学校改革マネジメントの力量向上に
- ・附属学園に教職大学院所属の「研究実践者教員」を配置

～附属学園～

義務教育学校：9年間を見通し、未来社会に求められる資質・能力を育成しています。文部科学省の研究開発指定を受け、新領域「社会創生プロジェクト」を創設し、協働探究カリキュラムの開発を行っています。

幼稚園：探索から探究へ、感覚的な学びから自覚的な学びへ、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえ、遊びを通して学ぶ保育実践園です。海外の先生方とのふれ合い等、様々な人との出会いの場として、週4日間の預かり保育も充実させています。

特別支援学校：12カ年を一貫とし、一人一人の教育的ニーズに応じた生活教育を実施しています。同時に教員はインクルーシブ教育を推進させ、通常教育の中での教育活動を支援しています。



義務教育学校での学びの様子

医学部理念

愛と医術で人と社会を健やかに

真理を探究する知への愛－

人命を尊重し人間に共感する人への愛－

医学教育の国際標準化

医学科では、世界医学教育連盟が定める教育の国際標準「医学教育分野別評価基準」に準拠した教育プログラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師・医学研究者の育成を促進しています。

革新的画像医学教育：
高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成しています。



画像診断教育の様子

看護学教育：
多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

看護学科では、幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる教育を行っています。また、地域の健康ニーズを把握し地域住民の健康を高めるための「ふくい看護論」を独自のカリキュラムに組み込むと同時に、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科学生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。また、キャリアアップ実習では、将来のキャリア形成のために国内あるいは海外（英国等）の病院で、高度実践看護師体験実習を選択制で受講できます。

バーミンガム市立大学での
高度実践看護師体験実習の様子

TOPICS

「F.GMES」(Fukui Global Medical Education Seminar)

遠隔授業システム「F.MOCE」を活用したオンライン国際交流の取組

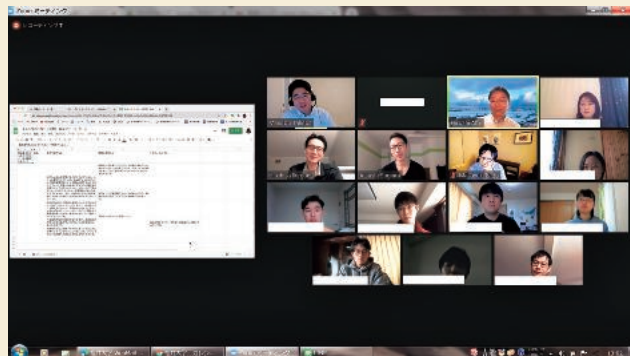
医学部附属教育支援センターが株式会社永和システムマネジメント（福井市）と共同で遠隔授業支援システム「F.MOCE」(Fukui-Medical Online Communication & Education System)を開発し、現在、このシステムが医学部の対面／遠隔のハイブリッド型授業を支えています。

医学部附属教育支援センターでは「F.MOCE」を活用した更なる取組みとして、コロナ禍で海外留学ができない学生のために、「F.GMES」(Fukui Global Medical Education Seminar)という企画を本学国際センターとともに立ち上げました。

「F.GMES」では、USMLE (United States Medical Licensing Examination) 受験や海外留学を目指す学生向けに、海外で活躍する日本人医師の方々に、ご自身の経験や医療現場の現状等についてセミナー動画を作成していただき、「F.MOCE」上でオンデマンド配信しています。

また、セミナー動画を視聴した学生向けに、日米欧を繋いだオンラインでの「ライブ質問会」も実施しています。

毎年新たなセミナー動画を増やし、過去の動画も「F.MOCE」上でアーカイブ化されており、今後も継続して「F.GMES」の内容を充実させていく予定です。



「F.GMES」ライブ質問会の様子

工学部理念

夢を形にする技術者、*Imagineer*をめざして

Global Imagineerの育成

工学部では、Imagineerの育成という理念を掲げて教育改革を推進しています。

Imagineer = Imagine(心に描く)+engineer(技術者)。現在では辞書にも掲載されている英単語です。そして工学の使命は人々の安全・安心な暮らしをデザインすること。技術者が心に描くべきものの一つは、人々の暮らしです。今、想いを馳せる人々の暮らしを日本だけでなく世界へ拡張出来るGlobal Imagineerの育成に取り組んでいます。

自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

Intelligence（知能）については、AIが人間を超える日が近いのかもしれませんが。しかし、知能指数で測れるような知能と知性（intellect）は本質的に異なります。教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を学科横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。



ヒューマノイドロボットや人工知能の実践的テーマを通じた創成教育

産業現場への即応、そして次世代産業の創成

現代の技術者には産業現場への即応と新たな時代を切り拓く能力が同時に求められます。産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム（実践道場）や卓越大学院プログラム（PEP:パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム）といった多様なプログラム等の実施を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。



産業界から実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム（実践道場）

TOPICS

福井大学データ科学・AI教育研究センターの開設

本学における数理・データサイエンス・AI分野に関する教育および研究の一層の推進を目的として、2021年7月にデータ科学・AI教育研究センター（Center for Data Science and Artificial Intelligence, DAセンター）が開設されました。

本センターでは、数理・データサイエンス・AI分野に関して、学内外の教育研究組織や地域社会と連携協力し、教育については、Specialistであると同時にGeneralistでもある高度専門職業人として、データサイエンスやAIを利用して課題を解決できる能力を身に付けた人材を分野横断的に育成することに取り組めます。



データ科学・AI教育研究センターキックオフシンポジウム

国際地域学部理念

未来志向で、地域に織り込む世界へのまなざし

～国際地域学部～

多様な学びを支える3つの特色

世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通じた異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。



授業風景

地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状・課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。

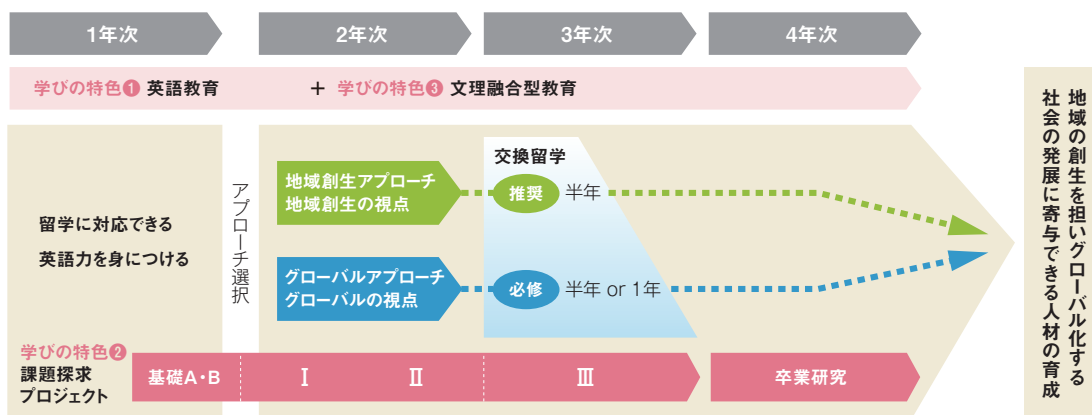


天保2年(1831)創業の味噌蔵「米五」でのヒアリング

医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対して意識を深め、その解決策提案に向けて、自然科学系の基礎的な知識や方法論を学びます。

入学後の流れ



～国際地域マネジメント研究科（専門職学位課程）～

グローバル化した地域の課題解決に挑戦するリーダーを養成

2年間の修学の中に「地域と世界の現状と課題を知る」「マネジメント能力、リーダーシップの育成に必要な専門知識」「語学力・コミュニケーション能力」に関する授業科目を設定し、教員と院生との双方向性や院生間の討議を重視することにより、専門知識の実践的な習得を目指しています。さらに「海外実地研修」に取り組むことで国際感覚の醸成と履修科目の内容の体得を図ります。

令和3年度はコロナ禍ではありましたが、パリのユネスコ本部や県内企業のニューヨーク支店において海外実地研修を実施し、一部は国内での研修で代替としました。



パリ・ユネスコにおける海外実施研修の様子

コロナ禍における教育の取組・学生支援

教育の取組

学生の通信環境への配慮や感染防止の工夫

通信環境がない学生にはWebカメラ付ノートパソコンの貸し出しや学内のパソコンルーム、Wi-Fi環境のある教室での受講を認める措置を行っています。なお、感染防止策の徹底を図るとともに、各講義室における座席間確保のため、状況に応じコロナ対応収容定員を設定しています。2021年度からは面接授業で実施することを基本としていますが、受講者の多い科目や遠隔授業による教育効果の高い科目等は、遠隔授業、あるいは面接授業と遠隔授業の併用により実施しています。また、3密を回避するため、一つの授業クラスを2つの講義室に分割し、一方で面接授業を行い、他方に映像と音声配信するなどの工夫も行っています。



講義室における感染防止対策

遠隔授業システムの整備・開発

授業は、リアルタイム型、オンデマンド型又は両者の併用で行い、2種類のLMSで遠隔授業を実施しています。また、遠隔授業支援システム「F.MOCE」を企業と共同開発し、教育効果や満足度の高い授業方法への改善を図っています。

学生支援

福井大学基金修学等奨学金の設立

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてアルバイト収入に減少があった学生への経済的支援を目的として福井大学基金を活用しています。

学生同士のライブ交流会

福井大学生限定の連絡や相談の場としてライブ交流会を開催しています。

学生相談

新型コロナウイルス感染症に関する学生からのお問い合わせの総合窓口「よろず相談窓口」を開設しています。



ライブ交流会（2021年度）のチラシ

TOPICS

福井大学 学生交流センターが竣工

グローバル社会において地域創生を担う人材の育成を目的に学生交流センターを2021年9月に竣工しました。

建物は、文京キャンパスの旧大学会館の跡地に新設し、延床面積1,908㎡のRC造3階建。センター内には学生同士が交流できるラウンジの他、英語教育を実践する「セーレン グローバルハブ」などが設置されています。

キャンパス内で点在していた入試課・アドミッションセンター、国際課・国際センター・語学センター、キャリア支援課・キャリアセンターを集約して、入学から就職までシームレスな修学支援を実現する他、グローバル教育を一層推進します。



学生交流センター



セーレン グローバルハブ

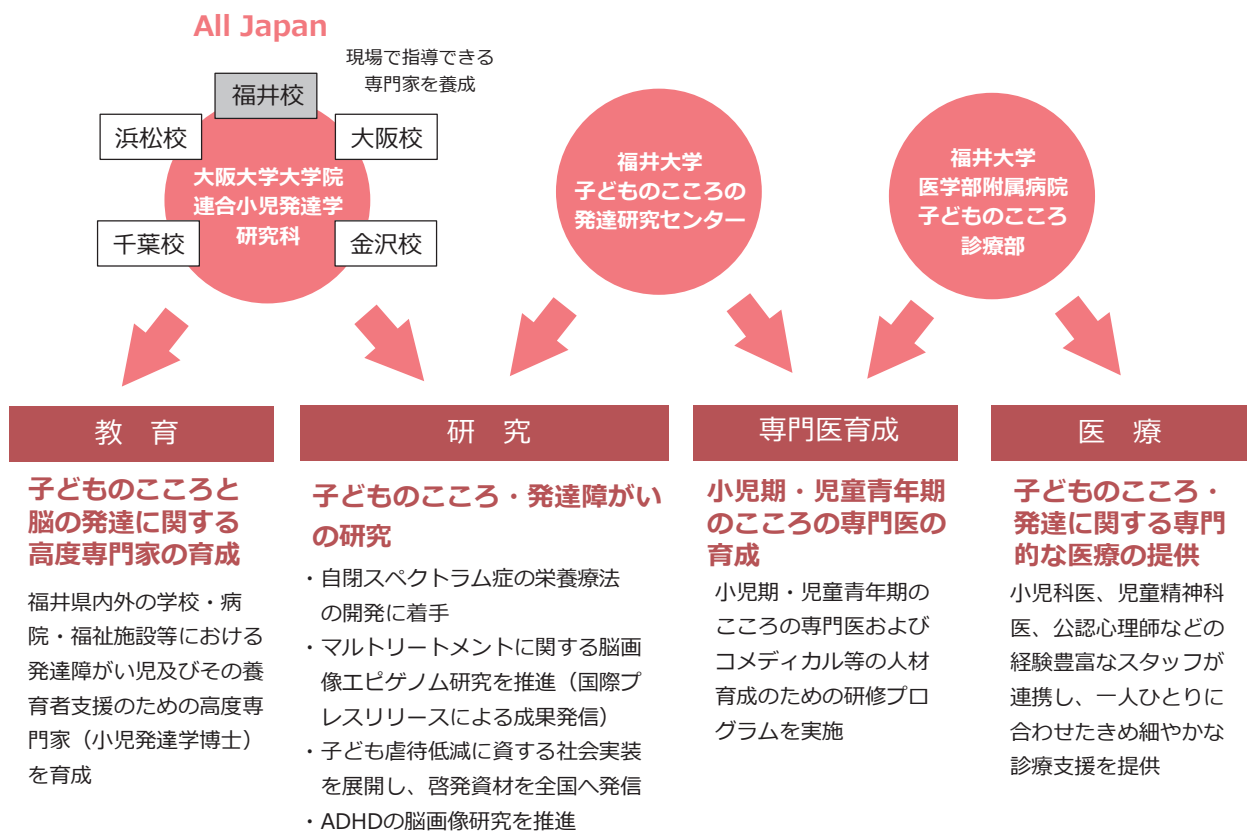
子どものこころの発達研究センター

子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むところに問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学の「子どものこころの発達研究センター」では、分子生物学技術やイメージング技術を駆使した脳機能の解明に取り組むとともに、新たな発達障がいの診療技法の開発を目指した研究を展開しています。附属病院「子どものこころ診療部」では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、養育者に目を向けた取組を実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、研究成果を教育に還元する目的で大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による大学院「連合小児発達学研究科」では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題に従事する人材の育成に取り組んでいます。



TOPICS

子ども虐待の低減に向けた養育者を支援する研修・啓発資材を開発

子どものこころの発達研究センター 友田明美教授らの研究グループが、母子保健・児童福祉・精神保健などの養育者に関わる多分野の支援者が共有し活用できる研修・啓発資材を開発しました。「マルトリートメント（避けたいかわり）」が、脳の発達や成人後の疾患発症に影響する可能性があるという科学的根拠などをわかりやすく解説したもので、この度開設した「マルトリ予防WEBサイト」で公開しています。

今後は、日本家族計画協会（JFPA）と共に全国に向けて普及活動を展開し、「マルトリ予防」と「とも育て」の理解を広げることによって、子ども虐待の低減を目指します。

○マルトリ予防WEBサイト：<https://marutori.jp/>



マルトリートメント低減のための研修・啓発資材開発

高エネルギー医学研究センター

高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進

サイクロトロン及びポジトロンCT・磁気共鳴（PET/MRI）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています。（米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携）国内有数の一体型PET/MRI装置を用いた最先端分子イメージング研究では世界的にもこの分野をリードしています。

PET分子イメージングの包括的研究を推進

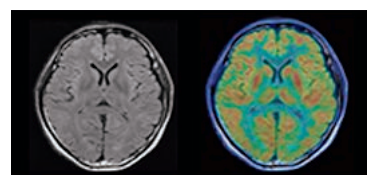
- ・新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- ・PET/MRIを用いたがんの診断・治療に関する臨床研究
- ・脳PETやMRI画像を用いた神経変性疾患の病態研究



世界有数の最新型PET/MRI装置

画像医学研究を担う人材の育成

- ・医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育
- ・海外留学生の大学院教育、国際ワークショップ等による医療画像分野での国際貢献



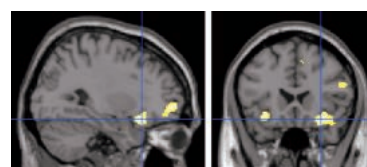
PETとMRIの融合画像

医工連携による産学官共同研究

- ・パナソニックライフインフォマティクス共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践

子どものこころの発達研究センター・精神医学講座との共同研究

- ・機能的MRI（fMRI）を用いた脳発達に関する機能画像研究
- ・自閉スペクトラム症の世界的脳機能画像研究機関として病態解明に貢献



学童～思春期に年齢とともに活動が変化する脳領域（カラー）

遠赤外領域開発研究センター

高出力遠赤外 / テラヘルツ波分野における世界的拠点

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

遠赤外（テラヘルツ光）領域の先進的・先導的研究

- ・高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ・ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築

- ・国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開
- （国内外10機関との学術交流協定、国内外10機関との共同研究覚書を締結）



遠赤外技術に関する国際会議（福井大学で開催）

繊維・マテリアル研究センター

繊維・マテリアルに関する研究の推進

本学の重点領域である繊維・マテリアル分野について、学術面と地域産業の発展に寄与すべく、教育・研究を推進しています。

繊維・機能性材料工学分野の基礎研究・開発の推進

- ・学内研究プロジェクトの実施、若手研究者を積極的支援
- ・研究成果の発信（研究発表会、年報の発刊、展示会出展などでアピール）

県内外の研究機関や企業との共同研究の推進

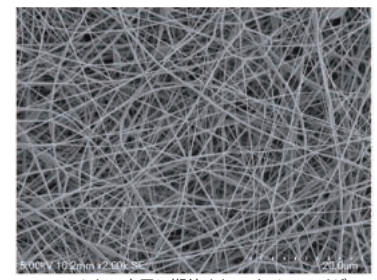
- ・専任教員が企業を回り、可能性を調査し、共同研究を強力に推進
- ・福井県工業技術センターや県内企業技術者との定期的な交流

研究プロジェクト実績（実施中を含む）

- ・NEDO事業「炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー（CNF）関連技術開発」：研究テーマ「多様な製品用途に対応した有害性評価手法の開発と安全性評価」（産業技術総合研究所と共同実施）
- ・AMED「ウイルス等感染症対策技術開発事業」：研究課題名「ウイルス感染を防止する低圧力損失マスク・フィルターに関する研究開発」



北陸ヤーンフェアに出展



フィルター応用に期待されるナノファイバー

附属国際原子力工学研究所

原子力の安全性向上、防災危機管理の向上のために

原子力関連機関が集積する地域の特性を活用し、国内外の大学や研究機関との連携により、工学部機械・システム工学科「原子力安全工学コース」の学・修一貫教育を推進し、地域課題に対応しグローバルにも活躍できる人材の育成を進めるとともに、先進的原子力科学研究、放射線利用研究、廃炉技術研究を推進しています。

国内の連携

未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム（ANEC）の構築

複数の機関が連携してコンソーシアムを形成し、原子力分野において育成する魅力的な人材像を掲げ、共通基盤的な教育機能を補い合い、拠点として一体的に人材を育成する体制を構築し、日本の原子力に貢献する人材育成の中核となることを目指す。

先進的原子力安全・防災・新型炉基礎研究

- ・福井県嶺南地区をモデルとした原子力防災手法の確立と計測機器等の開発
- ・新規制基準対応のための評価手法の開発
- ・廃棄物減容に係る研究
- ・もんじゅサイトの新しい試験研究炉の概念設計への協力と地元連携の構築

先進廃炉技術研究コンソーシアム

地域に根ざした既設炉の廃止技術研究と事業者ニーズに基づく人材育成

国際化

- ・独カールスルーエ工科大、ウィーン工科大学、フランス原子力庁、米アルゴンヌ研究所、ベルギー原子力研究所、ベトナム電力大、モンゴル科学技術大学、ウクライナ国立生命・環境科学大等との研究者・学生の交流
- ・さくらサイエンスプラン、国際シンポジウムの開催
- ・リモートによる海外からの講義の実施



リモートによるベトナムの大学との情報交換会
(Information Exchange Meeting in 2022)

附属病院基本理念

最新・最適な医療を安心と信頼の下で

県内で唯一の特定機能病院として高度医療を提供

「地域医療の岩」として最重症疾患患者を受け入れています。

安全で質の高い医療を提供するとともに先進医療の促進、若手医師の臨床研究への積極的参画の推進を図り、先進医療技術の地域医療への展開を目指しています。

大学病院初の北米型ER救急体制

軽症の一次救急から高度の専門的な治療が必要な三次救急まで、全ての患者を365日24時間体制で受け入れています。救急部と総合診療部の合体運営により患者のニーズに応じた救急初期診療を実践しています。



全ての患者を受け入れ
"地域医療の岩"として迅速に対応

パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と「看護総合力育成プログラム」の実現

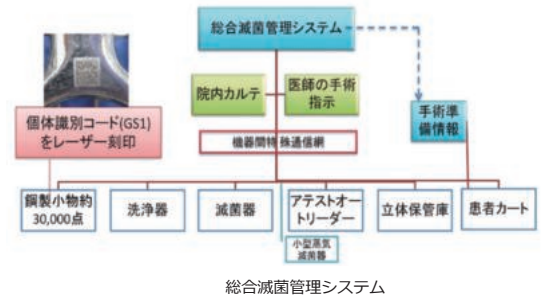
- ・本院看護部が開発した独自の看護体制（PNS）を全病棟で導入。二人の看護師がパートナーを組み、患者さんに安全で質の高い看護ケアを提供します。
- ・卒後3年間は、看護総合力育成プログラムに沿った段階別研修と育成チームによる支援体制により看護師として必要なスキルを習得します。



二人一組のチームで看護ケアを行う

労働生産性・安全性の向上と働き方改革の実現：
手術器具の「総合滅菌管理システム」を開発・導入

約32,000点の手術用鋼製小物の洗浄・殺菌から術後回収まで一元管理を行い、器材のトレーサビリティを確保することで、安全性向上、ワークフローの効率化による人件費削減、労働時間の短縮による看護師らの働き方改革に貢献するなど大きな成果を上げています。これらの成果は全国的な評価を受け、「MCPC award 2019」で総務大臣賞、「看護業務の効率化 先進事例アワード 2019」で特別賞を受賞しました。



総合滅菌管理システム

TOPICS

看護職員の働き方改革「ユニフォームを分けて勤務時間を可視化する」

看護職員の働き方改革の一環として、日勤は白色、夜勤は紺色と、ユニフォームの色で「シフトが見える化」しました。

職員本人の定時終了の意識を高めるとともに、管理職や他職種からも「本来の勤務時間帯なのか、残業しているのか」がひと目で分かり、内部コミュニケーションが変化しています。

残業時に周囲から不必要な声掛けをされることが減るなど、年間900時間の残業時間削減につながりました。

患者さんからも、2色のユニフォームによって「誰に声をかければいいのか分かりやすくなった」という声が上がっています。この取り組みは、2020年リクナビNEXT 第7回「GOOD ACTION アワード」Cheer up賞を受賞しています。



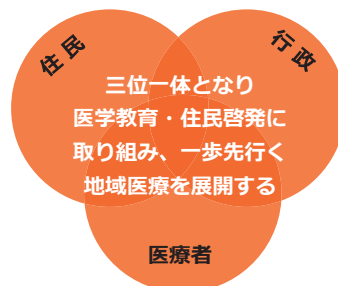
新ユニフォーム

地域医療の担い手の育成

地域の医師は、地域が育て、地域が守る

医学部地域プライマリケア講座では、高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。

- ・外来診療をはじめ救急診療、在宅医療、健康相談
- ・医学生・研修医教育だけでなく町民の皆様への啓蒙活動
- ・医療システムの研究や健康動態の調査



福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

- ・医学生・看護学生、医師、看護師等医療従事者の実技研修
- ・多職種連携トレーニング
- ・救急対応の標準化
- ・県内医療従事者の生涯教育の充実



縫合と結紮の基本（実技）の様子

臨床教育研修センター

「次世代を担う医療人を育てるために」をテーマに、卒後臨床研修の円滑な実施を始めとし、学生・医師・看護師および医療従事者の方に技術や知識を修得する場を提供することを目的に設置されました。

- ・本院で研修する初期臨床研修医の勉強・交流の場
- ・院内外の医療従事者を対象としたセミナー・講習会の開催



初期臨床研修医向けコアレクチャーの様子

TOPICS

県内唯一の骨髄移植認定施設として

白血病などの難治性の血液疾患において、薬物療法で改善が得られない場合は、骨髄移植が唯一の治療法となる場合があります。本院は県内では唯一、骨髄バンクまたは臍帯血バンクからの移植が実施できる認定施設となっています。移植医療そのものが患者さんの命に直結する治療であるため、移植に際しては多くのスタッフの協力が不可欠です。医師・看護師はもちろんのこと、薬剤師・看護助手・理学療法士・栄養士・検査技師・輸血部技師・事務職員など、附属病院スタッフが丸となって移植に臨んでいます。現在、年間20件前後の造血幹細胞移植を実施しており、また移植後長期フォローアップ外来(LTFU外来)も実施しています。



多職種スタッフによるチーム医療

産学官連携本部

産学官でイノベーションをハイブリッド推進

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

「ひとつ屋根の下」の協働

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。

「オープンR&Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進。



先端機器を利用したコンサルティング



最先端計測機器

イメージを「見える化」する試作

「インキュベーションラボファクトリー (ILF)」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。

〈ILFにおける試作品の例〉



浅井戸・加圧給水用ポンプ

油管理計

「知」の創出を支援する専門人材

「URA (リサーチアドミニストレーター)」

新たにT-URA(TはTechnology, Training, Transfer等を意味する)の取組を加え、研究現場における産学の情報集積、機器分析を通じた人材育成、技術相談等もカバー、大学を基軸に知的創造サイクルを回すエンジンとして、研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを通し、研究の卓越性を探究します。さらに、医学系研究の社会実装等の促進を図るため、新たにM-URA (MはMedicalを意味する)の取組を開始しています。

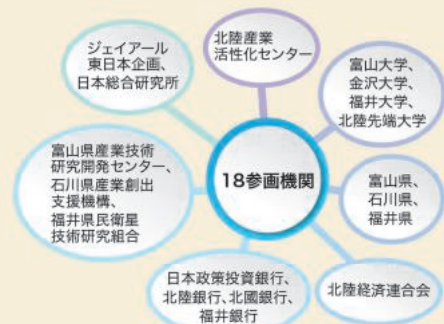
TOPICS

北陸 DX アライアンス (HDxA) 新事業創出へ

北陸地域の18 参画機関（北陸経済連合会や北陸3 県の国立大学、行政機関、金融機関等）が連携して令和3 年度に設立した「北陸DX アライアンス」は、北陸地域の産業資源とDXを組み合わせ次世代に向けた新産業を生み出す「Regional Digital Transformation (RDX)」を推進しており、本学も参画しています。

製造業や農林水産業などの地域課題にDX、ESG投資資金という新たな手段を加えることにより北陸地域の産業の高度化を目指すとともに、大学を起点とするオープンイノベーションを創出する北陸発の新たな地域振興モデルを構築していくものです。

本学では、工学部都市・環境工学科の藤本明宏准教授による「車両スタック危険度予測技術の開発」や、工学部機械・システム工学科の藤垣元治教授による「リアルタイム三次元計測装置の開発」などを推進計画に掲げ、活力ある独自の成長産業の創出に取り組んでいます。



地域が必要とする人材を育成

地域創生推進本部における人材育成

「地域創生推進本部」では、新たな製品による豊かな生活感やライフスタイルまで創造する「ことづくり」を担う人材の養成に取り組んでいます。2020年度からは、新たに3つの「部」を新設し、5部体制により、文部科学省による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」で培ったノウハウとネットワークをベースとし、ものづくりのイノベーションが地域の魅力につながり、人を引き寄せ、地域社会のイノベーションを生み出すサイクルを実現できる人材を養成し、一層顕在化した地方創生の諸課題への取組を推進します。

FAAふくいアカデミックアライアンス

「FAAふくいアカデミックアライアンス」は、福井県の協力のもと、県内8校の全ての高等教育機関が参加した協議体であり、福井における様々な地域課題に各高等教育機関が持つ特色ある知を活かした取組を展開していくものです。

2021年度には県の主導のもと、このFAAに加盟する高等教育機関と自治体・産業界・医療界・金融界等が「未来協働プラットフォームふくい」を設立し、共通の目標を持ちながら地域社会の維持発展を図るため取り組んでいくことになりました。

FAAの理念

1. 本県の将来を担う人材を育成・輩出する
2. 本県の人口減少対策や、地域・産業の活性化、医療、福祉、教育などの発展に寄与する

理念達成のため、4つの部会（入学者確保部会、地元定着部会、協働教育部会、教養共同化部会）を設け、それぞれにおいて活動を展開しています。



FAAふくいアカデミックアライアンスの情報を「Fスクエア」ホームページ（FAAの概要）にて公開中です。
URL : <http://www.allfukui-cocp.jp/>



福井県によるFAA学ぶなら福井！応援事業の補助を受けて実施した「福井県産純米大吟醸『福の愉』プロジェクト」における酒造会社での打合せの様子（「Fスクエア」ホームページ「FAA 協働教育部会」記事より）

福井大学では2020年度までに「ふくい地域創生士®」187名を認定、「ふくい地域創生アワード」9名を表彰しています。

※「ふくい地域創生士®」とは福井大学の登録商標で、地域を学び、自分を知ることにより「地域に貢献できる人材」と認定された証です。

※「ふくい地域創生アワード」とはふくい地域創生士の中から、地域の課題解決に繋がる顕著な業績をあげた学生を表彰するものです。



国際貢献

国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE（National Institute of Education）やWALS（The World Association of Lesson Studies）と協働で、「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開します。

2019年11月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官や教員など、アフリカ諸国にサウジアラビアを加えた7カ国から12名を受入れ、アフリカ圏の教育の質向上を支援する研修事業を行いました。



少人数グループでのディスカッションの様子

エジプトの教員の能力強化を目的とした人材育成事業

連合教職大学院では、エジプトの教員の能力強化を目的とした「エジプト・日本教育パートナーシップ」の人材育成事業により、2018年度からの4年間で約680名の教員を研修員として受入れます。

2020年1月には第3回目のプログラム受講生40名が本学を訪れ、教育学部附属義務教育学校や福井市公立学校で学校行事や授業を参観。「児童らによる給食準備」「朝の会」など日本独特の教育活動を中心に学びました。この他、本学教員がエジプトの現地を訪れ、帰国後の取組をフォローアップするなど、包括的な支援を行っています。



附属義務教育学校での参観

就職率14連覇

教育学部

95.6%

医学部

97.1%

工学部

96.1%

国際地域学部

93.0%

高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2021」において、本学は複数学部を有する国立大学では14年連続全国1位となりました。

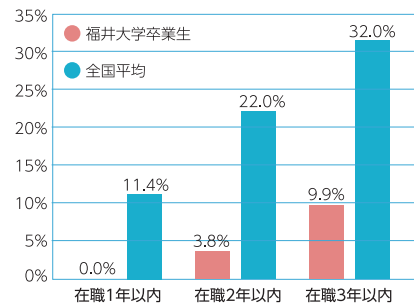
低い離職率！

在職期間3年以内の離職率（9.9%）は全国平均（32.0%）を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。

実就職率ランキング 複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2021	福井大学	97.2	宮崎大	93.9	群馬大	93.1
2020	福井大学	97.9	九州工大	95.0	群馬大	94.7
2019	福井大学	97.0	岐阜大	94.4	九州工大	94.0
2018	福井大学	97.3	岐阜大	94.8	三重大	94.0
2017	福井大学	97.4	九州工大	95.5	秋田大	93.9
2016	福井大学	96.8	九州工大	95.8	三重大	94.3
2015	福井大学	96.1	群馬大	94.0	九州工大	93.9
2014	福井大学	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大学	95.8	名古屋大	94.2	東京工大	93.5
2012	福井大学	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大学	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大学	94.3	九州工大	93.9	東京工大	91.3
2009	福井大学	97.2	九州工大	95.8	岐阜大	94.8
2008	福井大学	95.3	九州工大	94.6	岩手大	90.4

※実就職率は大学通信の「全国大学実就職率ランキング」
実就職率=就職者数÷(卒業者数-大学院進学者数)×100



全国平均については、平成28年(2016年)3月卒業者のデータを掲載している。
厚生労働省HP資料 新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移 (2019年10月21日公表)
<https://www.mhlw.go.jp/content/11652000/000557456.pdf>

福井大学が就職に強い理由 ～キャリアセンター（キャリア支援課）の取組～

社会的に自立し、社会を創造していける人材育成に力を入れ、キャリア・就職支援活動を強力にサポート。福大生は就職先から人間力・学力ともに高く評価されています。

1. 学生を支え、企業を応援する充実した就職支援・採用支援体制

年間50回以上の就職ガイダンスや学内合同説明会を実施しています。

2. きめ細やかな就職支援活動の実施

- ・専属のカウンセラー（3名）が常駐して、就職相談・履歴書添削・面接練習などを行っています。
- ・各学部・大学院の就職担当教員との強い連携による支援体制を整えています。
- ・企業・団体の求人情報をはじめ、先輩の就職体験記をWEBで確認できる就職支援サイト「キャリアサポートシステム」を運用しています。



キャリアカウンセラーによる就職相談

3. 積極的なキャリア形成

学生が自身のキャリアについて深く考え、自立した人間として成長することを目的として、共通教育科目「キャリアデザインA,B,C」「インターンシップ」を開講しています。

4. コロナ禍における積極的なキャリア支援の実施

緊急事態宣言や感染拡大警報の発令に合わせ、WEBや電話での就職相談を導入し、感染の状況に応じて対面での模擬面接や就職相談を行うなど、ハイブリッドで柔軟かつ継続的な支援活動を実施しています。また、企業等の動向を踏まえ、新たにAI面接を導入し指導を行っています。



スマホを利用したAI面接

第3期中期目標期間評価

(4年目終了時評価結果：平成28～令和元年度)

本学は、全86国立大学中、教育に関する現況分析で7位となる高い評価を得ています。

福井大学基金 ～羽ばたけ基金®～

福井大学基金では、新型コロナ学生支援及び人材の育成・輩出や地域社会の継続的発展のためのご支援をお願いしております。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。
(クレジットカード決済でのお申込が便利です。)

「リサイクル(古本)募金」「ふるさと納税」によるご寄附もよろしくお願いいたします。



◆リサイクル(古本)募金は、寄附者の方からご提供いただいた古本等を業者が換金し、その金額が福井大学基金に寄附されるものです。



◆福井県のふるさと納税「新型コロナ学生支援」「県内大学の魅力向上応援」を活用したご寄附については、「ふるさと福井応援サイト」ホームページをご覧ください。

※詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください。
<https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>



情報配信サービス

connect Ufukui (コネクト・ユー・ふくい)

福井大学の旬なニュースを、旬なままお届け!

福井大学広報センターでは、大学の研究や教育活動、イベント等の情報を通じて、地域や同窓生、高校生、在学生・保護者のみなさまとつながりを深めるため、情報配信サービスをスタートしました。本システムは画像なども含まれたHTML形式で配信します。ぜひご登録ください!

登録はこちら↓

<https://forms.gle/e2QnQizwos1saEg48>



灯りで心に感動を

～キャンパスイルミネーション～



思い出に残るような感動を与えるイルミネーションを、学生自らが企画しています。毎年様々な技術や工夫を凝らした行灯やオブジェを用いて、福井大学ならではの「ものづくり」の取組が行われています。

★開催時期

【文京キャンパス】毎年10月上旬～10月中旬
【松岡キャンパス】毎年10月中旬～10月下旬

★詳細はHPをご覧ください

https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/event/illumination/



研究者総覧をご存じですか?

大学のHPから福井大学に所属している研究者(教員)情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、キーワードや研究分野検索もできます。是非ご活用ください。

<https://r-info.ad.u-fukui.ac.jp>



福井大学の特色ある取組2022

発行 福井大学経営企画部経営戦略課

発行日 2022年4月1日

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

TEL : 0776-23-0500 (代表)

HP: <https://www.u-fukui.ac.jp/>

